

ポストコロナ社会の提案募集の結果概要

「ポストコロナ社会に向けて～兵庫からの挑戦～」と銘打って4月下旬に開始した提案募集について、期日の6月末日までに計168件の応募がありましたので、その概要を公表します。

幅広い分野にわたり、積極的な提案をいただき、応募者の皆様に感謝申し上げます。

優れた提案については、具体化に向けて今後検討を進めるとともに、提案者が自ら行う取組を支援する補助制度（令和2年度6月補正予算で創設）の活用を呼び掛けていきます。

1 提案の状況（別添1）168件（87件）

※件数の括弧内は6/1知事定例記者会見資料（別添2）の件数。以下の主な提案概要はその後に受け付けた提案の中から記載

① コロナ対策（社会貢献事例の情報） 27件（21件）

- ・電話相談や宿泊療養施設への人的応援、患者への激励、手作りフェイスシールドの配布
- ・消毒液やフェイスシールド等の取引先間のビジネスマッチング、近隣店舗への弁当発注
- ・エンジニアとして転職できる技術の習得が可能なオンラインITスクールの開設 等

② コロナ対策（新たな取組のアイデア） 69件（36件）

- ・不特定多数が集まる施設の気流の動きを可視化し、換気の設備改善や技術導入を提案
- ・胸部単純レントゲン写真を用いた深層学習による新型コロナウイルスの自動診断技術を開発
- ・ウェアラブルカメラとWeb会議システムを組み合わせる遠隔専門医教育・専門診療を提供
- ・病床準備状況をリアルタイムで可視化し、適切な設備のある施設での受け入れを促進
- ・ネット・ゲーム依存への対応強化（オンライン診療スキームや予防アプリの開発）
- ・県内飲食店のレポート動画を外食通などから募る「食レポ甲子園」を実施 等

③ ポストコロナ社会の提案 72件（30件）

- ・低リスクで挑戦できる「副業」を広げるため、官民連携で兵庫発の副業モデルを構築
- ・集客イベントの高揚感、一体感を共有できるオンラインイベントシステムを構築
- ・一般家庭（室内）で簡単に野菜を生産できる装置を開発（デジタル農業）
- ・オンラインで社会人が高校生のメンターとなるキャリア教育の仕組みを構築
- ・企業版ふるさと納税を活用して特別支援学校の福祉避難所モデル整備事業を実施
- ・都市部だけでなく郊外も含め、複数の自治体による広域のスマートシティ戦略を検討
- ・民間と連携して社会課題に取り組むイノベーションプラットフォームを県庁に設置 等

2 提案の取扱い

- ・優れた提案については、県関係部局で具体化の検討を進めるとともに、今後検討を本格化するコロナ危機を契機とした社会変革政策や新長期ビジョンにできるだけ反映
- ・提案者が取組の具体化を進める場合には、新たな補助制度（下記）により支援

【参考】ポストコロナ社会の具体化に向けた調査検討費補助

ポストコロナ社会に向けた取組を進めるために兵庫県内において個人または団体が行う調査研究活動、実証実験等に要する経費を右表のとおり支援（令和2年度6月補正予算）

区 分	一般枠		特認枠
	実証実験なし	実証実験あり	
補助上限	50万円	200万円	1,000万円
補助率	10/10	10/10	1/2
予算額	2,000万円		2,000万円

ポストコロナ社会の提案の内容（6/1知事定例記者会見以降）

① 社会貢献事例（6件）

	提案内容
1	【衛生用品の寄付等：個人】 フェイスシールドの寄付、使い勝手の良いタッチレスツールの開発・製作（今後無償配布）
2	【行政と大学の連携：個人（大学教員）】 電話相談や宿泊療養施設への人的応援、患者への激励、手作りフェイスシールドの配布等
3	【企業活動の中での支援：企業】 消毒液やフェイスシールド等の取引先間のビジネスマッチング、近隣店舗への弁当発注等
4	【銅の殺菌作用を活かした製品の開発：企業】 優れた殺菌効果を持つ銅を使った製品（ティッシュケース、マスクケース等）の開発・製作
5	【オンラインITスクール：企業】 エンジニアとして転職できる技術の習得が可能なオンラインITスクールを開設
6	【お金の使い方（特に寄付）を改めて考える機会の提供：団体】 お金の使途を4分割（消費、貯蓄、投資、寄付）し、寄付を誘う「お金の使い方シート」を公開

② 新たな取組アイデア（33件）

	提案内容
1	【緊急時の行政窓口の補完：企業】 緊急時に行政からの人材の派遣や業務委託契約により、地域金融機関の支店に公的な支援相談窓口を設置。迅速な情報収集と支援メニューの立案により公的機関への人の集中を抑制
2	【多言語ポータルサイトアプリの開発：個人】 コロナ関連の国・自治体の最新の情報を、イラストを使って視覚的に分かりやすく整理して発信する多言語ポータルサイトを開設。全国の外国人対応の相談窓口の一覧も掲載
3	【個人情報流出・盗難防止：個人】 情報セキュリティの脆弱な市町をサポートするためのチェックシートの提供、専門家派遣、他の市町の先進的な取組の情報共有等による個人情報流出・盗難防止対策の強化
4	【密閉空間改善のための気流の見える化：団体】 不特定多数が集まる公共施設や民間施設の気流の動きを可視化してシミュレーションし、施設管理者に換気の設備改善や技術導入を提案
5	【人流センサの活用による密の可視化：企業】 人流センサを店舗等に設置し、リアルタイムに過密状態を把握できるWebサイトを構築。店舗等は人流データを解析することで「密」の解消や効率的なサービスの提供が可能に
6	【会議室の三密対策：企業】 ①これまで以上の広さ、カメラ・音響設備やネット環境等の集会支援サービスを実施 ②特に医療従事者向けの集会支援サービスを実施し、医学系の集会（学会等）を誘致
7	【空気を利用した飛沫対策：企業】 飛沫の流れを変えたり遮断したりする小型の送風装置を開発し、飛沫対策スクリーンやフェイスシールドを不要に
8	【第2波以降に備えた体制整備：NPO】 ①広域避難場所や避難所に医療用テントを常備、避難所（小中学校）へ隔離棟を設置 ②バス・タクシー等の交通事業者の物流参入体制の構築、マスクや紙類等のストック強化 ③農産物の販路消失時の対応（直売サイトの開設、給食センターに代わる販路の開拓）
9	【新型コロナの自動診断：個人（大学教員）】 胸部単純レントゲン写真を用いた深層学習による新型コロナ肺炎の自動診断技術を開発

10	<p>【総合医療ネットワークの活用：企業】</p> <p>①バイタル機器と無線LAN備えた輸液ポンプの導入による患者の遠隔管理と省力化の実現 ②バイタル管理、自動アラート、テレビ電話機能を有する在宅患者見守りシステムの導入 ③バイタルデータを患者本人が管理でき、医療機関との情報共有も可能なアプリの開発</p>
11	<p>【遠隔診療システムの構築：団体】</p> <p>遠隔診療システムを搭載した「遠隔診療車両」を開発し、地域に分散配置して運用。これにより患者が住居の近くで質の高い医療サービスを等しく受けられる環境を整備</p>
12	<p>【遠隔診断・治療教育：個人（大学教員）】</p> <p>画像データを用いて遠隔で「触感」を得られるようなアプリケーションとハードウェアを開発し、非接触型で行う質感の高い診断・治療の実習・シミュレーション環境を整備</p>
13	<p>【遠隔地での専門医教育・専門診療：個人（大学教員）】</p> <p>ウェアラブルカメラと低遅延のWeb会議システムを組み合わせることで遠隔専門医教育・専門診療の仕組みを構築。遠隔専門医教育の報酬制度や達成度評価方法の確立にも取り組む。</p>
14	<p>【循環器疾患診療の新しい形：個人（大学教員）】</p> <p>循環器疾患の遠隔診療における小型テレメトリー心電計の活用</p>
15	<p>【患者受入体制の構築：個人（大学教員）】</p> <p>地域内の病床準備状況をリアルタイムに可視化・共有することで、患者の状態、重症化の可能性等を踏まえ、適切な設備のある施設での受け入れを促進</p>
16	<p>【コンテナタイプ移動病室：個人】</p> <p>平時は家の部屋として使えるコンテナ型の病室を開発。専用の搭載車又は牽引車も開発し、災害時の避難に活用。これがあれば要介護者が家族と一緒に旅行することも可能に</p>
17	<p>【診察の効率化：個人（高校生グループ）】</p> <p>①自治体ごとに電子カルテを共有するシステムを構築 ②病院内での待ち時間削減のため、ネットでの番号札を利用</p>
18	<p>【風評被害・誹謗中傷のない社会：個人（高校生グループ）】</p> <p>病院関係者等への誹謗中傷や風評被害をなくすためのSNS等による情報発信</p>
19	<p>【労働力のマッチング等：個人（高校生グループ）】</p> <p>①企業の人手不足と職を失った非正規労働者のマッチングを図るシステムの構築 ②自動車業界の新しい働き方（感染者移送車等の新たなニーズへの対応やスキルシェア）</p>
20	<p>【農家と飲食店をつなぐ：個人（高校生グループ）】</p> <p>農家と飲食店経営者との生産者と消費者という元からのつながりを活用し、失業もしくは大幅に減収した飲食店経営者が農家に就職あるいは兼業する仕組みを構築</p>
21	<p>【ライブハウスをオンライン配信の拠点に：個人（高校生グループ）】</p> <p>ライブ目的の利用が減ったライブハウスでスタッフが撮影や音響、照明をサポートし、音楽ライブ、オンライン授業、オンラインセミナー、観光地PRなどの動画を制作・配信</p>
22	<p>【飲食店をPR動画で応援：団体】</p> <p>県内飲食店のレポート動画を外食通や各店のファンから募る「食レポ甲子園」を実施</p>
23	<p>【3密下での飲食店の利用促進策：個人】</p> <p>①空間の確保と入場制限（予約制）を行った上でAfter5の居酒屋等の利用を推奨 ②ランチタイムを11～14時中の1時間として分散化。店舗では入場制限（予約制）を実施</p>
24	<p>【国内経済の回復：個人（高校生グループ）】</p> <p>日本人観光客に絞った観光戦略を兵庫で展開、「コロナ芸術」コンテストの開催</p>
25	<p>【観光マップ「ぬりえ地図」の制作・配布：団体】</p> <p>県内の観光施設や町並み、史跡、文化施設、伝統工芸、産業など兵庫にまつわる「ぬりえ地図」を制作・配布（県内各地のクリエイターが制作。総合学習や観光地の下調べにも活用）</p>
26	<p>【オンライン授業の実施：個人】</p> <p>小学校でのオンライン授業の早期実現（一律オンラインでも一律登校でもなく各人の個性や家庭の状況に応じてどちらでも選択できる対応をすることで子どもの学びの機会を保障）</p>

27	<p>【すべての人が学べる機会の創出：個人（大学教員）】</p> <p>①大学生の学びの継続に向けた相談機能の強化と、就労促進に向けた地元企業との連携強化 ②オンラインでのリカレント教育、キャリアアップ講座の開設と分野別の認定試験の創設</p>
28	<p>【生涯学習に「感染症と健康」を取り入れる：個人（大学教員）】</p> <p>今後も未知の感染症が発生する可能性があることから、感染症の知識と具体的対応策を学習するカリキュラムを作成し、幼児からシニア世代まで対象に即した方法で実施</p>
29	<p>【心の出前保健室：団体】</p> <p>どんなストレスがあるのか、ストレスの量とストレス解消の方法、バランスは合っているのかななどを気軽にチェックできて、話を聞いてもらえる場をカフェ、図書館などで展開</p>
30	<p>【青少年のネット・ゲーム依存への対応強化：個人（大学教員）】</p> <p>ネット・ゲーム依存に対する正しい理解と予防・治療法の確立をめざし、オンライン診療スキーム、症状評価・カウンセリング等の診療支援システム、予防アプリなどを開発</p>
31	<p>【絵本による心のケア：団体】</p> <p>孤独を乗り越えるツールとして「絵本」を介した場づくりを促進。絵本を読み解くワークショップをネット上で展開し、新たな居場所づくり、仲間づくりにつなげる。</p>
32	<p>【オンラインツールの活用：個人】</p> <p>①甲子園球場をオンラインで楽しむ（有名選手のトーク、球児へのアドバイスなど） ②オンライン・オープンキャンパス（仮想のキャンパスの中で説明会などを実施） ③兵庫のお店を応援するため営業再開後の予約システムを開設（前払い制で）</p>
33	<p>【空き家の利活用：団体】</p> <p>自宅以外の活動場所を求める人々へ空き家とその活用方法の情報をインターネットで発信。空き家巡りイベントや実際の活用事例を知ることのできるオンラインツアーも実施</p>

③ ポストコロナ社会（４２件）

	提案内容
1	<p>【震災での経験も踏まえた知の結集等：個人（大学教員）】</p> <p>①震災での経験を踏まえ、専門機関、中間組織の活躍やコミュニティの可能性も含めたメゾ・レベル（マクロとミクロの間）の感染症対策の事例を収集・分析し、知見として蓄積 ②免疫力向上に向けた取組の展開（発酵食品の活用、食育、農業体験、運動の習慣化等） ③高齢者に特化した対応（施設の感染症対応設備投資支援、介護者のリカレント教育等） ④遠隔教育を前提とする個別教育計画を策定できる教員の養成、学校現場のICT化の加速 ⑤サプライチェーン再構築のための産業集積活用（製造業の集積を生かした関連産業誘致）</p>
2	<p>【分散化の取組推進：個人】</p> <p>①デジタル化の推進とセキュリティ対策、そのためのAI人材養成 ②都市部から農村部への人口移動の奨励、若者が夢を持てる農村づくりの支援 ③自立持続を目指し、特産品の開発、地場産業の振興、再生可能エネルギーの促進 ④利益至上主義にとらわれず、地球環境の視点からクラウドファンディングによる資金獲得</p>
3	<p>【環境問題等への対応：個人】</p> <p>①環境問題（再生可能エネルギーの拡大、自動車保有率の低下促進、都市部での緑化） ②人口減少と少子高齢化（県北部や淡路島への定住促進、給付金の贈呈、医療費の軽減） ③文化・芸術（各地域に根付く文化を内外に発信。「酒」博物館や「鞆」博物館を整備） ④防災（避難所に1週間の食料を備蓄、避難所で活動する医療従事者へ給付金）</p>
4	<p>【まちの分散化・自立、食料・エネルギー自給：個人】</p> <p>①各地に小規模・分散型の居住地域を形成 ②再生可能エネルギーの活用により2050年に二酸化炭素排出実質ゼロを実現 ③自家用車使用を減らすため、鉄道やバスなどの公共交通を再評価し、物流でも活用 ④グリーンニューディールの推進、食料自給率の大幅なアップと医療資材の国内供給 ⑤国内居住者をターゲットにして観光の取組の見直しを進める等</p>

5	<p>【モバイルクリニックの活用：企業】 コンテナ移動式診療所が過疎地や病院のない地域を訪問し、高齢者はじめ通院が困難な住民に対して歯科検診・内科検診・理美容サービス等を提供。災害時は被災地の医療に貢献</p>
6	<p>【オンライン看護：個人（大学教員）】 オンライン看護の体制を整備し、面会が叶わない患者の家族や関係者とのコミュニケーションを円滑化。リモート講座、オンライン相談、オンラインモニタリング等のサービスを提供</p>
7	<p>【要介護者とのコミュニケーション支援：団体】 要介護者と介護（医療）従事者の情報共有アプリを開発。日々の気付きや検査結果等を都度記録し、共有するシステムとすることで、関係者の相互理解を促進し、効果的なケアを実現</p>
8	<p>【同一助産師による継続ケアの保証：団体】 子育て世代包括支援センターの「切れ目のない支援」機能を強化し、すべての妊産婦に妊娠・出産・産後を通して、自分が選んだ同一の助産師による継続的なケアを保証する体制を構築</p>
9	<p>【健康への意識改革：団体】 ①健康関連・フレイル予防関連の人材ネットワークづくりと情報共有の場づくり ②免疫学の普及（講演会等） ③専門指導員の養成（高齢者を含めた人材の育成・活用）</p>
10	<p>【地場産業振興のためのオンラインの活用：企業】 県内の地場産業の振興のため、オンラインを最大限活用し、地場製品のクラウドファンディングやSNS、YouTube（産地のライブ配信等）などの統合サイトを創設</p>
11	<p>【働く人の負担軽減：個人（高校生グループ）】 リモートワーク推進条例の制定、遠隔診療の推進、空き家を活用したミニオフィス整備等</p>
12	<p>【過疎地域へのテレワークスペースの整備：個人】 自宅にネット環境を構築していない方への提供や分散することによるリスク対策などにも資するよう、過疎が進む地域で空き家や公民館等を改装してテレワークスペースを整備</p>
13	<p>【自治体主導の副業モデルの構築：個人】 転職や起業よりも低リスクで挑戦できる「副業」を広げるため、官民連携で労務管理等の課題抽出、取り決めの設計、実践企業・人材の公募等を行い、兵庫発の副業モデルを構築</p>
14	<p>【オンラインイベントシステムの構築：企業】 集客イベントの高揚感、一体感、没入感を多くの人と共有できるオンラインイベントシステムを構築（ライブ配信やTwitterでの参加などをECのイベントと合わせて展開）</p>
15	<p>【オンラインイベントへの参加促進：個人（高校生グループ）】 「覗き見」可能にして参加者を拡大、VRを活用してライブ感を向上、カラオケ店を活用等</p>
16	<p>【農村回帰型楽農生活の普及：個人】 都市で「住み働き」農村へは「たまに帰る・行く」から農村で「住み働き」都市へは「たまに行って働き・遊ぶ」に転換（企業向け啓発、テレワーク環境整備支援、農村出身者への実家改修等支援、空き家の斡旋、地域への溶け込みをサポートする「郷親」制度の創設等）</p>
17	<p>【自給自足社会の構築：個人】 食料や物資を備蓄する、買わなくて済むように食料を生産し、衣類・道具は物々交換する（国としては食料自給率を高める）、体力をつけるなど災害に強い暮らし方を一人ひとりが実践</p>
18	<p>【モイスチャープラズマファーム構想：個人（大学教員）】 「キャビテーションプラズマ技術（気泡中にプラズマを発生させる技術）」で水から活性酸素水を製造する技術を応用することで、有害な農薬に依存することのない持続的農業を実現</p>
19	<p>【デジタル農業：企業】 「自産自消」「食の安全」「家族の絆」をテーマに一般家庭（室内）で簡単に野菜を生産できる装置を開発</p>
20	<p>【すき焼きプロジェクト：個人】 みんなが知っている「すき焼き」を活用し、「兵庫を食べる」をテーマに県内各地の特産品を使ったすき焼きメニューを生産者・飲食店と一緒に考案、オンラインすき焼き会も開催</p>

21	<p>【脱炭素型地域モデルの形成：団体】</p> <p>①木質バイオマスの域内活用と森林の適正管理、②オフグリッド防災拠点と分散型電力システムの整備、③グリーンスローモビリティ（4人乗り以上の電動車両による低速度の公共交通）による地域交通の整備、④事業者による自家発電・蓄電の導入などを一体的に推進</p>
22	<p>【高校のキャリア教育支援：企業】</p> <p>オンラインツールを活用して高校生と社会人の接点を作り、社会人が高校生のメンターとなって、将来何がやりたいのかを見つけるための相談・体験ができる仕組みを構築</p>
23	<p>【スポーツコミュニティタウンとしての活性化：団体】</p> <p>地域を「スポーツコミュニティタウン」として活性化させるため、様々な団体をオンラインでネットワーク化してスポーツサロンの空間を創造。新たなスポーツイベントを企画</p>
24	<p>【文化財等のデジタルアーカイブ化：団体】</p> <p>文化財や歴史的建造物、自然地形等を現地に行かずとも詳細に確認できるよう、ドローン、360度カメラ等でデジタルアーカイブ化してWebに掲載し、学習、研究などに幅広く活用</p>
25	<p>【生活文化体験による国際交流：個人（大学教員）】</p> <p>地方の一般家庭に残る「日本らしい生活文化」を体験する国際交流事業を発展させて、本当の日本の田舎暮らしが体験できる新たな観光プログラムとして持続する仕組みを整備</p>
26	<p>【県内の魅力を知る旅の提案：個人】</p> <p>①近場で楽しめる「兵庫の旅コース100」等を様々に設定し、聖地巡りの仕掛けで誘因 ②しりとりや五十音順などで普通には行きそうもない場所を巡り、地域の魅力を発見</p>
27	<p>【ボランティア活動のデジタル化：地域団体】</p> <p>①Webを活用したオンラインボランティアの領域を開拓、ボランティアのすそ野を拡大 ②高齢者の孤立を防ぐため、デジタル指導、サポーター制度等によりデジタル格差を解消</p>
28	<p>【オンラインツールの活用：個人】</p> <p>①オンラインボランティアの促進（学校や塾に行けない子の学習をオンラインで支援等） ②高齢者が遠方の家族と会話できるようテレビ電話の操作方法等を教えるサービスの提供 ③地域の良さをオンラインで話し合うイベントの開催や場の創出</p>
29	<p>【デジタル化による社会参画の輪の拡大：NPO】</p> <p>全ての可住地を公共Wi-Fi網でカバー、全県民にタブレット等を提供・配布して、地域活動や自治会活動、様々な活動への参加がリアルだけでなく、バーチャルでも可能な環境を整備</p>
30	<p>【危機へのリスク管理と情報共有：個人】</p> <p>消防署、医療機関、保健所等の官民一体となったネットワークに救急医療の情報を集約する仕組みの構築、各主体が発信する災害発生リスク情報の一元化、スマホへの情報提供等</p>
31	<p>【特別支援学校の福祉避難所化：団体】</p> <p>特別支援学校の福祉避難所整備モデル事業を実施。企業版ふるさと納税を活用して重要資機材（太陽光発電装置、給電器、福祉車両、ラップポイントイレ等）を購入。研修・訓練を実施</p>
32	<p>【非常時でも健康で文化的な最低限度の生活を：個人（高校生グループ）】</p> <p>弱者を支える社会システムを強化（医療無償化、相談窓口の強化、教育用電子機器の導入等）</p>
33	<p>【地方移住の推進：個人（高校生グループ）】</p> <p>企業へのテレワーク支援と地方の魅力発信も含めた移住促進策を一体的に実施</p>
34	<p>【空き家の利活用：個人】</p> <p>①宅地の減免をなくし、空き家となった場合の課税を見直し、活用可能な空き家を確保 ②空き家の管理を条例等で義務づけるなど強化 ③移住者が負担可能なレベルまで支援を拡充 ④よそ者を受け入れることを拒む意識の改革</p>
35	<p>【里山（畑付き）一戸建て賃貸住宅：個人】</p> <p>移住のハードルを下げるため、空き家と耕作放棄地を活用して畑付きの「賃貸住宅」を提供</p>

36	<p>【ひょうごNEW NORMAL LIFE プロジェクト：企業】</p> <p>①ニュータウンの空き室や都市公園、県庁の一部や空き家をリノベーションし、新しい生活スタイルに呼応するイノベーションの拠点となるくシェアリングスペースを各所に開設</p> <p>②ハードの充実と合わせて兵庫県庁「あたらしいことをやる課（仮称）」を立ち上げ、民間活カ・技術の活用と、既存施策を組み合わせ、複合的な社会課題を解決する仕組みを構築</p>
37	<p>【広域的なスマートシティ戦略の検討：団体】</p> <p>人を物理的に集約させることを必要としない分散型のスマートシティ実現に向け、都市部だけでなく郊外も含め、複数の自治体による広域のスマートシティ戦略を検討</p>
38	<p>【自治体の情報発信：個人】</p> <p>県内各地の話題をタイムリーに取り上げる市民参加型の定期的なバラエティ番組を創設</p>
39	<p>【IT化の推進：企業】</p> <p>①IT化、縦割り解消、マイナンバー利用の3本柱で公的手続を簡素化・効率化</p> <p>②センサ等による自動化、清掃ロボットの導入、在宅医療の推進など社会全体のIT化を推進</p>
40	<p>【行政サービスのデジタル化：個人（大学教員）】</p> <p>行政サービスを対面・アナログ型から非対面・デジタル中心へと変革して効率化。これを支える強靱なネットワークインフラの整備と、ネットワーク拠点や支援員の配置等を推進</p>
41	<p>【行政のデジタル化：個人】</p> <p>国・自治体のデジタル化を推進。全書類をデジタル化してミスや停滞が見える化。机を共有化して職員の交流を促進。事務が効率化・迅速化することで、住民と役所の距離も近づく。</p>
42	<p>【デザイン・アートによるまちづくり：個人】</p> <p>エリアごと（例：ターミナル駅周辺、郊外住宅街、里山等）に、デザイン・アートを活用し、エリア像をビジュアル化（県民からの提案募集、デザイン公募、企業等のクレジット表記等による支援、地元還元や計画づくりへの活用、ICT・IoT・GIS・AR・VRなど新技術を活用等）</p>

ポストコロナ社会の提案の内容（6月1日知事定例記者会見時資料）

① 社会貢献事例（21件）

	提案内容
1	【マスク着用の効果解明：個人（大学教員）】 学術的技法を利用して、呼吸時のマスク周辺の気流構造を解明し、正しい知識を啓発
2	【医療機関の体制整備：企業】 遠隔ICUシステムの一定期間無償提供
3	【帰宅困難シェルターの提供：企業】 医療従事者のための緊急回避的な帰宅困難シェルターの提供
4	【防護物資不足に対する新規開発と無償対応：企業】 3Dプリンタによる個人防護具制作のための三次元設計データ、造形品無償対応
5	【医療資機材等の新規開発：企業】 簡易陰圧システム、フルフェイスマスク等の新規開発
6	【医療資機材等の寄贈等：企業】 特別支援学校等への噴霧装置や電解次亜塩素酸の寄贈等
7	【フェイスガードによる感染防止対策：企業】 100円均一商品を使った簡単な透明フェイスガードの作り方
8	【新しい風習「お春元」：企業】 営業、新年度挨拶もできないので、お世話になった人や企業に新しい風習「お春元」を送る
9	【飲食店グルメサイトの無償提供：企業】 飲食店を応援するために明石飲食店グルメサイト「ONE TEAM」を無償で制作・運営
10	【買い物代行サービス：個人（公務員）】 路線バスを活用して食品や日用品などの買い物を代行するサービスを開始
11	【オンラインセミナー：個人（大学教員）】 世界の学生と神戸学院大生のグローバル・セミナーのオンライン開催
12	【家庭学習支援：企業】 学習アプリ「はやべん」による休校中の子ども達への学習支援
13	【生涯学習支援：個人（公務員）】 オンラインで動植物を観察できるサイトを開設（動物は3D画像化）
14	【大学生にふるさと福袋：地域団体】 淡路島に縁のある大学生に「ふるさと福袋」としてメッセージと共に淡路産品を発送
15	【オンライン子育てひろば：NPO】 自宅待機中の母親らを支援するオンライン上の子育て広場を開設
16	【女性の活動の場の提供：団体】 母親を対象とした参加型バレエやオンラインのリフレッシュ、出会いの場等を運営
17	【高齢者向け運動パンフレット：団体】 高齢者等向けの自宅でできる簡単な運動を紹介するパンフレットを無償配布
18	【オンラインフィットネス：企業】 オンラインによるフィットネスレッスン
19	【スポーツ選手によるオンライントレーニング：企業】 女子バレーボールJTマーヴェラスと一緒に自宅で簡単なトレーニングができる動画配信
20	【オンラインヨガ：個人】 オンラインヨガ動画配信
21	【コロナ関連情報発信：企業】 コミュニティチャンネルや独自アプリでのコロナ関連情報の発信

② 新たな取組アイデア（36件）

	提案内容
1	【新型コロナウイルス増殖阻害剤開発：個人（大学教員）】 レムデシビル、アビガンはRNA合成酵素の能力を阻害しウイルス増殖を抑制するが、本案はそのRNA合成酵素が細胞内で作られないようにする薬剤を創薬開発機構と連携して開発
2	【新型コロナウイルス予報の研究：企業】 実証実験を行っているインフルエンザ予報に加え、新型コロナウイルスへの適用を目指し、インフルエンザと新型コロナウイルスの同時流行を予防（自治体のデータも融合）
3	【PCR検査能力拡大対策：個人】 簡易ブースで保護した検査室設置による公民館等でのPCR検査実施
4	【医療機関の体制整備（遠隔ICU）：企業】 遠隔ICUによる病床の確保、効果的な医療の提供、働き方改革の推進
5	【医療機関の体制整備（医療品備蓄倉庫）：個人】 兵庫県内の各災害拠点病院における医療機関配布用の医療品備蓄倉庫設置
6	【感染症病棟の確保：企業】 スポーツセンター・体育館・公民館の臨時隔離病棟化
7	【障害者事業所との連携による医療物資調達：NPO】 障害者事業所へのコロナ対策に必要なマスク等の医療物資の発注
8	【抗菌めっき技術の普及：企業】 高機能抗菌めっき技術を顧客ニーズに精通した関連業者に広く技術開放し、幅広い分野での活用をめざす（現在、新型コロナウイルスへの効能確認の検討を進めている。）
9	【施設の感染防止対策：個人】 高性能光触媒による施設等での防ウイルス対策
10	【施設での飛沫感染対策：企業】 病院、スーパー等での飛沫防止スクリーンによる飛沫感染対策
11	【手洗いの手法の見直し：企業】 手洗い後のペーパータオル利用、閉栓時のレバー活用
12	【学校等の感染防止対策：個人】 運動時にフェイスカバー付き帽子を着用（マスクで運動は危険）
13	【換気による感染防止対策：個人】 緊急事態措置緩和後の人が集まる場所（学校等）の換気方法
14	【技術を活用した感染防止対策：個人（学生）】 ①服屋、化粧品販売店など手で触れることなく試着等を可能化 ②エスカレーター、手すりなどに取り付け可能な除菌システムの導入 ③レインコートや虫よけブレスレットのように菌を体に寄せ付けない商品の開発 ④まるで会っているかのような感覚になる等身大のスクリーンの開発 ⑤検査を素早く簡単に、医療従事者の負担にならないような検査機械の開発
15	【コピー需要の高まりへの対応：個人】 行政手続に必要な書類のコピー難民対策（公的機関での対応等）
16	【行政窓口の3密回避策：個人】 病院に倣って窓口の順番待ち効率化、全庁での仕事の割振、職員の業務改善提案の促進
17	【安全な事務作業：個人】 給付事務など市役所窓口で多くなる事務を安全に行う労働環境の整備
18	【健康づくり：個人】 高齢者の健康のため顔体操を普及

19	<p>【受動喫煙対策：個人】 飲食店において留保を付けずに禁煙化</p>
20	<p>【第二波以降に備えた準備：個人（学生）】 ①マイナンバーカードを使わずインターネットだけで、住民票や申請書の申し込みを可能に ②感染症患者とそうでない患者の接触を減らすため、オンライン診断などを可能に ③老舗や中小企業、飲食店、ライブ会場、アーティスト、花屋などをコロナなどの感染症の危機から救える社会に（最低三か月分の資金を貯めておく仕組みの構築など） ④すべての会社の商品がネット通販可能に ⑤テレワーク、時差出勤、オンライン授業の推進。家族間、下宿先などでの感染対策等 ⑥ホームレスの方やネットカフェに住む人々の暮らしを支える（仮設マンションなど） ⑦余裕のある対応ができる社会（マスクなど最低限必要な物資を確保できる企業へ）</p>
21	<p>【第二波以降に備えた準備：個人】 ①「不要不急」「自粛」等の曖昧なスローガンに代わる、科学的な行動を促す適切な言葉遣い ②役所が必要に応じて地域団体等に協力要請を契約できる仕組みを設けるなど県民参画 ③候補者の顔が見える選挙、こういう人に投票したいと思える人が分かる選挙に</p>
22	<p>【第二波以降に備えた在宅ケアシステムの進化：個人（大学教員）】 在宅ケアを支える医療機関・事業所、介護事業所などを対象にした新型コロナウイルス感染症への対応、想定される第2波・第3波への備え、専門職をはじめとするステークホルダー間の連携上の課題などについて調査</p>
23	<p>【業態変化への対応等：個人（公務員）】 ①出張サービスや家事代行に乗り出す飲食店への支援を実施 ②起業支援ばかりでなく廃業支援も強化 ③地方への移住の壁になる学校教育の水準の地域格差をオンライン教育で解消 ④抗体検査と希望者への証明書発行による不安払拭</p>
24	<p>【スモールビジネスを始めやすい環境整備：企業】 スモールビジネスを始めやすい環境を整備するため、オンライン上で提供側も購入側も自宅で決済が可能となる決済サービスの普及</p>
25	<p>【安定的な集客の確保：個人】 ①店舗の無人化を促進 ②地域の商店の総合オンラインサイトを開設（デリバリー対応等） ③ホテル、観光地、商店街、地場産業を連動させたツアーを開発</p>
26	<p>【県内店舗紹介ウェブサイト：個人（学生）】 ホームページ作成に抵抗があり、広告を掲載するための費用を割けない経営者のために兵庫県内の店舗に限り掲載でき、かつ無料のウェブサイト、スマホアプリを展開</p>
27	<p>【動画の活用：企業】 誰もが動画を使いこなせるようになる「みんな動画プロジェクト」を実施</p>
28	<p>【仕事のマッチング：個人】 資格がなくてもできる仕事と仕事がなくなった人をマッチング</p>
29	<p>【大学生の能力の活用：NPO】 SNSによる情報発信やデザインを得意とする学生と高齢者が中心のコミュニティビジネス運営団体をマッチング（学生はリモートワークによる外部クリエイターとして活動）</p>
30	<p>【withコロナ時代の旅客船：団体】 ・医療従事者等の観光船への招待や、船舶の安全性を改めてPRし、ナイトタイムエコノミーの実施や少人数での付加価値のあるクルーズを実施等</p>
31	<p>【兵庫県限定御朱印帳プロジェクト：NPO】 兵庫県内の若者に兵庫県限定の御朱印帳を無料で配布、マイペースな県内の旅をスタンプラリー感覚で促し、全ての御朱印を集めた県民には県内某所で景品を渡すなど娯楽性を演出</p>

32	【ドローン×VRによる仮想旅行：個人（学生）】 ドローンで撮影するリアルタイムの景色映像をレンタルVRで提供するビジネスモデル構築
33	【農家を守る取組：個人（学生）】 ①パソコンやスマートフォン上のウェブサイトおよびSNSを利用した「兵庫県のみの生産物の販売」をコンセプトにし、オンラインストアの設立や運営 ②マイナンバーカードを使用し行政機関がオンラインストアを経由して全国の生産物を消費者に届けるサービス ③家族で農業体験
34	【芸術のリモート鑑賞：個人】 芸術文化公演について、空席にWi-Fiカメラを設置し、有償でのリモート鑑賞を提供
35	【知事記者会見における工夫：個人】 知事記者会見の改善（知事の化粧、背景の刷新、川柳等字幕の工夫）
36	【県政の積極的発信：個人】 報道番組等での県の状況の積極的な発信

③ ポストコロナ社会（30件）

	提案内容
1	【自立的な社会づくり：個人（大学教員）】 ①テレワークの拡大による育児・介護の家庭回帰促進 ②オンライン化による教育・医療の地域格差是正、移動の負担軽減 ③宅配・移動販売の促進による買い物難民の解消 ④インバウンド消費に依存しない観光集客による地域活性化 ⑤食料とエネルギーの自給率向上（海外依存度の低下） ⑥サプライチェーンにおける中国依存の是正（東南アジアへ分散） ⑦製造業における国内生産への回帰促進 ⑧国内未就労者の活用による技能実習生への依存低減
2	【郊外への移住：個人】 ①非・避難地域の評価と告知 ②通信インフラ進化と網羅 ③物流システム拡充と多様化 ④人工光植物栽培研究と普及 ⑤新しい価値観で生まれた事業を支援
3	【二地域居住の推進：団体】 神戸・大阪から1時間ほどでの立地である西脇市において、柔軟かつ弾力的に、暮らしと仕事の安心・安全を保てるよう、二地域居住（デュアルライフ）を推進した社会実験を実施
4	【ワーケーションの推進：企業】 ワーケーション受入のため、滞在者用の住宅（旅館等）、IT環境等の整備を行うとともに、福利厚生サービスとの連携や企業版ふるさと納税の活用など利用者の確保等の仕組みを構築
5	【田舎での暮らし：団体】 地方（田舎）の自然豊かな環境の中で仕事と生活を両立する社会の実現（本社移転、サテライトオフィス設置費の支援、移転等に要する経費の移住者・定住者への支援、交流サポートセンターの設置）
6	【ポストコロナモデル特区の指定：個人（大学教員）】 特定の地域を「ポストコロナモデル特区」と位置づけ、ICTを活用したまちづくりを集中的に推進し、ポストコロナ社会の新たな暮らしを具現化

7	【地域通貨の活用：個人（公務員）】 地域通貨を県が発行。県民一律10万給付。飲食店、ホテル等で消費するシステム導入
8	【マイナンバーカードの活用：個人（大学教員）】 自らマイナンバーに紐付け個人情報情報をネット上で記入するデジタルカード(マスクなどの在庫公開と優先購入、口座とリンクし給付金早期支給、納税者番号とリンクし緊急融資等)
9	【働き方の見直し：個人】 テレワークの有効性を積極的に活用、リモートオフィスを市民のために整備
10	【健康的な働き方：個人（大学教員）】 ①労働者各個人のクロノタイプ（朝型、夜型）を科学的に評価し、各個人の生理的リズムに適した労働時間帯を個別に設定することにより時差出勤を施行 ②テレワーク時の健康維持について特に生活リズムの観点から科学的実証に基づいて、企業、個人に対する健康教育並びに提言
11	【認定農業者の組織化：企業】 「淡路玉葱」「御津大根」「揖保川トマト」のような高技術の農業プロ集団を養成し、その集団を組織化
12	【県民参加型農業の促進：個人】 ①利用されていない土地に安価で大規模な県営農園を各地に設置 ②都心部から農園までの交通機関を整備（シャトルバス等） ③安価な宿泊施設を併設（公営施設・空き家を活用） ④地元民に有償で作物の育成指導や農園管理を依頼（地域活性化） ⑤滞在者が米、大豆、麦等の主要作物育成を手伝い（人手不足対策） ⑥ふるさと納税制度を利用して貸農園開発の資金源を確保
13	【交通サービスの高度化：個人（大学教員）】 乗降客の様々なニーズに対応する交通コンシェルジュの設置（ノーマイカーデーを実行性あるものとするための公共交通利用）
14	【空の交通の活性化：個人（大学教員）】 ①小型機専用の離着陸場を各地に開設して空の交通を活性化 ②設置した離着陸場を活用して空飛ぶ自動車を開発
15	【オンライン教育の推進：個人（大学教員）】 ①高校・大学教員向けにオンライン教育の教材・教授方法を開発 ②オンライングループワークソフトの開発と地域づくりへの応用
16	【オンライン教育の推進：個人（学生）】 市がオンライン学習担当の部署を設置。市からパソコン等を持っていない家庭にiPadやパソコン、Wi-Fiを貸出（市のコールセンターでネット環境等は対応）。質問できる時間を確保
17	【SDGsラーニングコミュニティ：企業】 ネットワーク上で兵庫未来人材（仮称）を育成する仕組みを構築
18	【高齢者施設で農園整備：個人（公務員）】 ①高齢者施設と園芸療法士のマッチング（ニーズ調査の実施） ②自治体、高校等との連携による農園芸の実践（効果：認知症予防、農産物の自給、耕作放棄地の活用、地域との関係構築等）
19	【高齢者専用銀行の創設：個人】 地方銀行の新たなビジネスモデルとして高齢者とその家族を顧客に、①お金に関する相談、②ニーズに応じたサービスの提供、③生活支援サービスの紹介等を行い、高齢者の金銭面の不安を解消
20	【持続可能な在宅医療：企業】 オンラインセミナーなどによる在宅医療の啓発、療養住環境のシミュレーション実施

21	<p>【新たな救急搬送システム：企業】 官民連携したITを活用した高齢者救急搬送システムの導入</p>
22	<p>【レジリエンスのある社会：個人】 ①避難所へのテントの配備 ②低収入の若者による中高年者へのSNS・Zoom等の講習 ③息抜きや仕事に使える公共シェア空間の整備 ④高品質の保存食の開発、⑤避難所等への自家発電機の整備</p>
23	<p>【地域防災の見直し：企業】 ①自宅避難の奨励 ②地域独自に備蓄 ③自主防災組織による買物代行や共同調達 ④自宅療養者に対する地域での支援 ⑤自主防災組織の体制刷新</p>
24	<p>【避難訓練の新たな手法：個人】 家族・子供・街の住人が避難訓練ごっこをするイベント、そのイベントが大規模にできるようなテーマパークの創設</p>
25	<p>【大学と地域が連携した地域活性化：個人（学生）】 若い世代の学生が企業や地域など社会的影響力のある団体と協力して、地域の人との交流イベントを実施</p>
26	<p>【県民総アバター化計画：企業】 電子空間の中に仮想兵庫県を作り出し、交流のフロントのほか、観光、医療、教育など県民ならその中を自由に行き来可能な場</p>
27	<p>【体内へのチップ埋め込みによる生体AI化：個人】 体内にマイクロチップ（AI）を埋め込み、個人認証、健康管理を自動化し、教育、医療、就労、買い物等を飛躍的に効率化・非接触化</p>
28	<p>【新ビジョン策定時の視点：個人】 地球規模を視野に入れた人づくり、ものづくり、政策づくりが大切</p>
29	<p>【新ビジョン策定時の視点：個人】 高齢者が安心して暮らせる町づくり、子育て中の母子支援を充実させるために、自治体、社会福祉協議会の充実</p>
30	<p>【ウェブディスカッション：個人（大学教員）】 多彩な業種を巻き込んだ座談会式ウェブディスカッションの場の提供</p>